

## 会議録

会議の名称	平成24年度 第2回西東京市健康づくり推進協議会及び第1回健康づくり推進プラン策定検討委員会
開催日時	平成24年5月22日（火曜日） 午後7時30分から
開催場所	西東京市保谷保健福祉総合センター6階 講座室2
出席者	石田会長、内田副石田会長、橋岡委員、永田委員、新倉委員、平田委員、石井委員、小林委員、志藤委員、新出委員、嶋津委員、斉藤委員、高山委員、池田委員、高梨委員、高西委員、高橋委員、田中委員、大堀委員
議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成24年度第1回西東京市健康づくり推進協議会議事録について</li> <li>(2) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画策定までのスケジュールについて</li> <li>(3) 健康日本21の動向について</li> <li>(4) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画にあたっての検討課題</li> </ul>
会議資料の名称	資料1 24年度健康づくり推進プラン次期計画策定までのスケジュール 資料2 健康日本21（第2次素案） 資料3 西東京市健康づくり推進プラン次期計画構成案 資料4 健康づくりに関する取り組み「西東京市健康都市宣言」×「各種分野別計画」 資料5 健康づくり推進プラン策定検討委員会委員名簿 資料6 西東京市健康づくり推進プラン策定検討委員会設置要綱（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	

## 1 開会

石田会長より開催挨拶。  
事務局より欠席者の連絡、傍聴人の確認（0人）。資料確認。  
各委員より自己紹介

会長：

プラン策定検討委員会を設置し第1回目の会議となるため、まず委員会の構成について事務局より説明をお願いします。

事務局より資料6 説明

座長、副座長の選出

母子専門委員会 座長：平田委員、副座長：高山委員

成人専門委員会 座長：永田委員、副座長：志藤委員

全体の策定検討委員会 座長：永田委員、副座長：平田委員

## 2 議事

### (1) 平成24年度第1回西東京市健康づくり推進協議会議事録について

第1回西東京市健康づくり推進協議会議事録について修正、意見等の確認後、承認された。

### (2) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画策定までのスケジュールについて

事務局より資料1 説明

会長：

母子・成人のそれぞれの会議が12月まであり、合同会議を12月に開催する。合同会議は1回しかないなので、それまでに仕上げなければならないという厳しいスケジュールだ。スケジュールについて意見、質問があれば、お願いしたい。

事務局：

本日は計画書策定について議論し、合意後、7月までに健康都市宣言の項目に沿って分類し、骨子を踏まえ粗々の考え方のものを完成させる。9月の協議会で骨子について合意をいただき、11月にはパブリックコメントと市民説明会の実施となる。後半には国から具体的な指標が出てくるので、そちらとも合わせた形で計画を作り上げていくイメージだ。

### (3) 健康日本21の動向について

事務局（インテージリサーチ）より資料2 説明

会長：

健康日本21を元に西東京のプランを作成するが、都のプランはまだ出ていないのか。

委員：

作成中だ。健康日本21を受けて、都の計画を策定するため、指標は後になってしま

う。

会長：

前回の策定では都の計画を参考にしたが、今回間に合うだろうか。

事務局：

指標については、都とほぼ同時になると考えられる。

会長：

今回は主に健康日本21を参考に策定することになる。意見、質問があればお願いしたい。

健康日本21にも掲げられており、科学的根拠に基づく具体的な設定目標があるが、全てに数値目標があるとは限らないので難しいだろう。ある程度数値目標がないとプランの指標判断には使いづらいので、その点も吟味しなければならない。今回は10年間を目標としているのか。

事務局：

10年の計画だが、国の計画にあわせるので中間見直しは必要になる。

委員：

具体的な形として、最終的には冊子（西東京市健康づくり推進プラン）が目標になるのか。これが形としてはいわゆるマニュアルになるのか。どのくらいの頁数、規模を想定しているのか。

会長：

健康日本21はかなり目標を絞って縮小した印象がある。全部を同じように作ることはない。

事務局：

作成プランが非常に細かく周知ができない、読み込めないという意見が多かったことを踏まえ、伝わりやすい中身にしたい。現行計画を全て無くすということではなく、見せ方を変えていく。指標についてもそのまま入れると10年間での指標の見直しは大変になるので、計画として何を指すかを見やすくし、目標指標は別途後ろの頁につけるような形で見直すなどとし、国の動きがあった際に耐えられるようなものにしたいと考えている。

委員：

目標としては冊子をベースにし、シンプルにするということか。循環器系の数値など新しいものは変わりなく利用するイメージか。

事務局：

目標設定の指標については、国の動向が見えてからにしたい。骨子では何を指したか、どういうことを大事にしたいかといったところの意見をいただくことが大事だと

考えている。

齊藤委員：

資料2の7頁の「二 計画策定の留意事項」の2について。「また、都道府県は～策定するように努めること」となっており、市町村の計画に影響すると思うが、今後粗々のものが出てくる予定はあるのか。

委員：

国の報告を受けて東京都の計画を策定するので、都では必要部分について検討に入っていると思う。各市町村の数値も含め調査したものが準備されるだろう。この計画内で役割分担として都道府県が実施するもの、市町村が実施するものと分かれているので、都道府県が実施するものについては都の計画に重点的に書かれると思われる。

会長：

資料2を参考にして作成していただきたいと思う。

#### (4) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画にあたっての検討課題

事務局より次期計画にあたっての検討課題について報告

事務局（インテージリサーチ）より資料3、4 説明

会長：

質問、意見があればお願いしたい。

資料3の「3.重点的取り組み」は健康都市宣言に掲げられた項目であり、市民に周知することが重要だ。

委員：

母子・成人がうまく連携を取り、表現を作りあげないと返って複雑にならないだろうか。限られた会議の中でどのように進めていくのか。

事務局：

ひとつはコンサルが入るので表現の統一は図れる。小林委員は両会議に参加してもらうので意見等の共有は出来ると考えている。

会長：

今回のプラン策定にあたって母子・成人を分けたことは重要だ。市民の行動目標を成人に行動変容させることは難しいとわかった。そのために母子、学童の生活習慣を改善できないかと考えて分けた。母子・成人を分けたことで10年先に効果がでるのではないかと期待している。

委員：

「5.成果目標」、「6.市民の行動目標」、「7.行政の施策目標」だが、項目の並びについて、表題が違う。「3.重点的取り組み」を成果目標別に分けたものが「5.成果目

標」で、成果目標に向けて市民としてどう行動するか、行政がどのように関わるかという部分を掲載していくものだが、この表題が異なったり、別々に書かれているとわかりにくくないだろうか。成果目標に市民がやること、行政がやることなど、関係機関がやることを並べて見せたほうがわかりやすいのではないか。内容については活かすにしても見せ方を変えたほうがよくないだろうか。そうすれば成人・母子で話し合ったことを並べて見せやすいかと思う。

委員：

成果目標に新たに加わった4点（「6 感染症の減少」「7 アレルギーの減少」「9 子どもの事故防止」「11 子育て不安の減少」）は昨年度の会議で出たものだ。母子と成人の整合性の話だが、会議で大人と子どもでは観点が違うという話があった。それまでの成果目標では成人病の対策を重点とされていた。しかし子どもでは成人病は具体的な問題ではないため、子どもの健康増進となると、まず「感染症の減少」という話になった。流行性疾患についておたふくや水疱瘡はまだ多いので予防接種を盛んにし、感染症を減少したい。また「アレルギーの減少」については、小児科ではアレルギーが問題になっており、減らして行きたいと考えた。「子どもの事故防止」では子どもの不慮の事故が死亡原因のトップにあるので、どういう施策ができるかという話になった。これらを健康日本21に当てはめるとうまくまとまるのではないだろうか。健康都市宣言の重点的取り組みにあわせるような形で、はめ込んでいけばわかりやすくなるのではないか。成果目標は後から加えていったために、わかりにくい形になった。そのあたりをまとめ、もう一度議論してはどうだろうか。

もうひとつ、健康日本21の最終目標が「健康で長生きできる社会を作ろう」とある。そうすると成人病は幼少期から始まること踏まえ、食育や食生活、日常生活を見据えてうまく誘導しなくてはいけないだろう。成人の健康プランとマッチするような形で持っていくと、最終的に健康で長生きできるお年寄りを作ることに繋がると思うので、そのような視点を持って議論することも必要と考えている。

会長：

全体をまとめて体系づくりが大変だろう。ただ成人・母子のそれぞれで作っておかないとできないものだ。そういう意味では母子の関係で作ってもらえるのはいいことだ。

副会長：

市には色々な部署があるが、それぞれの部署の事業展開との整合性が重要になってくる。そのあたりの関係はどのようにまとめるのか。

事務局：

総合計画の見直し時期に入ってきている。25年度までになっている計画が多いのは26年度以降の総合計画との整合性の絡みがある。その中で市としての大きな方針がそれぞれの計画に反映してくる。また健康都市宣言の庁内検討委員会において、関連計画の各課長が出席し計画進捗状況を確認するので、意見のズレがないように情報提供していきたい。

会長：

まとめる作業が大変になってくる。それぞれの委員会で検討して最後の1回でまとめるので、非常に難しいだろう。

委員：

母子と成人の2つに分かれて会議を行うが具体的にはどのように検討するのか。例えば「健康づくり推進プラン」の基本的な考え方といった大きな柱があるが、その柱についてそれぞれで検討するのか、それとも分担するのか。最後の合同でちゃんとまとまるのか心配だ。

事務局：

基本的には現行計画と国の計画から大きくは外れない。専門委員会では、重点的取り組みに繋がるような、具体的なブロックに分けた中でどのようなところが大事かを検討していただきたい。それを国の計画との中で、このような分類で上手に分けて見せていくようになる。専門委員会では重点的な取組み、成果目標の項目をどのように表現していくか検討していくことになる。9月協議会で議論したものを国の意見とあわせてまとめ、肉付け、構成の見直したものに意見をいただくようになると思う。

会長：

それぞれの会議の途中で協議会を開き、協議会にて内容について検討していく。母子班は母子専門分野をある程度検討していただくことになる。もちろん共通部分も出してもらう。

委員：

母子・成人と分けたが、数値目標、成果目標はほとんどを数値で表すものか。それとも文言だけか。国の成果目標にある数値に沿ってやっていくのか。

事務局：

取組み内容によって数値で表せる物もあるが、数値で評価が出来るところまでではないが、重要なこと・大事なものとして取り組むものは、言葉であげなくてはならないだろう。

委員：

中間評価の際に評価・進捗状況が文言だけでは読み取りにくい。国の健康日本21の目標値に沿って、健康づくり推進プラン次期計画構成案の母子班・成人班でやっていくという理解か。

事務局：

昨年度までの評価の委員会でも、現行計画の中で評価する指標として新たなものも考えたほうがいいのかということで、評価のための指標として色々指摘をいただいている。出てきた計画に対して何を使えば評価できるかを繋げられるようにし、最終的には見えるようにする必要はあると考えている。

委員：

母子と成人に分けたときに、トータルでも成果目標を作るのか。それぞれ母子・成人で別々に成果目標を作るのか。

会長：

共通するものはひとつだ。成果目標が成人にあてはまらず、小児に偏っているものはある。

委員：

成果目標として達成できるのは母子だろう。啓蒙もしやすいし、集計もしやすい。成人は悪くなってくるだろう。それをトータルで見ると母子の結果で全体を上げる傾向になるので、成人の達成率の悪さが浮かび上がらないようにしたほうがいいだろう。同じような目標を持って、個別に集計したほうがいいだろう。

会長：

健康日本21には母子保健に関する指標はない。だから西東京市としては重点を置いてやりたい。

委員：

母親は子どもを見ることに一生懸命になる。市民にプランを活用してもらうことを考えると母子、成人と分けたほうが興味を広げやすいのではないか。「子ども用」とすれば母親は一生懸命に見る。

会長：

母子・成人で分かれる部分が出てくるとは思う。

事務局：

見せ方、普及啓発のひとつとして、概要版などターゲットを絞っていくよう検討したい。

委員：

資料3の「3.重点的取り組み」の単語だが、「5.成果目標」以降の具体的な項目の言葉と一致していない。例えば「こころ」という言葉は3にあるだけで、5以降にはない。単語の整合性をとっていかないと見ても混乱してしまう。重点的取り組みの項目と成果目標以降の単語をあわせるようにしてほしい。

委員：

成果目標と重点的取り組みのどちらを主体にしてやるのかを考えると、重点的取り組みがあり健康都市宣言したのであれば、健康日本21にあわせて作ったほうがいいと思う。例えば『健康把握』であれば、母子班ならば体格や肥満度をチェックし、それが最終的にメタボリックの減少に繋がることにもっていけるのではないか。また『こころ』であれば、心に関して健康づくりでやっているのは、西東京市教育計画でスクールカウンセラーをおくとしかなく、他は何もやっていない。子どもの場合には、不登校や引きこもりなどがあるので、それに対して何か具体的なものを入れ、実際の成果目標なども結び

付けていけばやりやすいと思う。

会長：

確かに様々あると、どこに結びつくのかわかりにくい。

事務局：

健康都市宣言はあくまでも生活する市民目線でわかりやすい文面にしてある。プラン作成時は疾病予防的な問題・課題というところから出た項目をまとめ上げている部分がある。成果目標で出た課題で減らしたいといったものが、市民生活においてどういう意味合いに入るのかという見方でまとめ上げていく形になると思う。組み合わせの違いをどのようにまとめあげ、どのように捉えればいいのかということは提案していきたい。

会長：

具体的に作ってもらい検討しないとまとまらないだろう。重点的取り組みを中心にやるとわかりやすい。前回のプランがわかりにくく、一般に伝わっていないことが欠点だった。そこを十分に考えたい。

委員：

範囲が広すぎて迷う。どこから手をつけていいかわからない。

会長：

今回うまくまとめてわかりやすく出すことが重要だ。

委員：

健康日本21の次期計画の骨子を見ると、幅広く高齢者から次世代の子どもに重点的に取組まなければならない課題もある。全体像を西東京市ではどうするかも必要と感じる。「重点的取り組み」は健康都市宣言を重点に取組んでいく位置づけで、全体ではそこを作るという位置づけなのかと思う。重点的取り組みのことだけに絞りと、例えば煙草や受動喫煙などは入れにくいのではないだろうか。

委員：

逆に西東京市の重点目標の中に煙草や飲酒といったところを各論で入れ込むということ部会で検討していけばいいのだろうか。

会長：

時間があるかどうか問題だが検討をしていただきたい。ある程度、骨子を作成しないと難しいかもしれない。

委員：

以前の協議会で認知症について、話が出たと思うが、資料には入っていないようだ。

事務局：

議論には入っていく。

委員：

文言について「4.「健康づくり推進プラン」の総合目標と目標体系」の「(3) 健康な子どもを増やすこと」だが、慢性疾患を持つ子どもの親としては、排除されていると取られかねないだろうか。例えば「子どもが健やかに育つこと」など、今の状態から健やかに育つような文言にしたほうが全ての子どもを対象に出来ると思う。

会長：

文言を含め検討委員会で具体的に議論し、修正していただければと思う。その他、何かあるか。

委員：

スケジュールが間に合わない場合、臨時で会議を開催するか。

委員：

会議回数を増やすこともひとつだが、時間を延ばすなどはどうか。

事務局：

必要の際は適宜対応する。

#### (5) その他

事務局：

次回のプラン策定検討委員会は6月下旬に予定。開催日については、後日通知とする。

健康づくり推進協議会は9月に予定。